

# 江戸時代の鳥取城

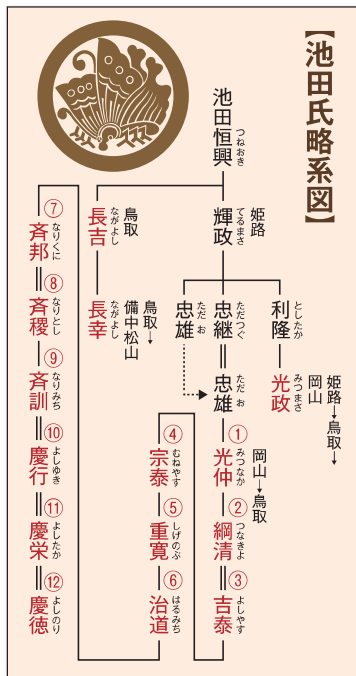
関ヶ原合戦後には、池田長吉が入ります。長吉は姫路城を築いた池田輝政の弟で、鳥取城は姫路城とともに、西国の豊臣系大名の抑えを担いました。

しかし、1615年(元和1)、大坂夏の陣で豊臣家が滅亡すると池田家は転機を迎えます。1617年(元和3)、姫路城主池田光政は所領減封の上、因幡伯耆32万石の領主として鳥取へ転封となり、現在の鳥取県域とほぼ同じ鳥取藩が誕生しました。

鳥取城は宮部時代から5、6万石規模の大名の居城に過ぎなかったため、池田光政は山麓を32万石の政庁として整備しました。

1632年(寛永9)、岡山城主池田忠雄の死去に伴い、3歳の光仲が家督を継ぐと、幕府は従兄弟・光政との国替を命じました。以後、鳥取城は光仲を藩祖とする鳥取池田家12代の居城となり、国内有数の大藩の政庁として存続しました。

## 【池田氏略系図】



## 鳥取池田家と徳川幕府

鳥取池田家の藩祖光仲の曾祖父は、徳川家康でした。そのため、鳥取池田家は特に江戸幕府から徳川家一門に準じて厚遇され、鳥取城は外様大名の居城としては唯一、城内の建物に葵紋の瓦を葺くことを許されました。鳥取城周辺や東京都内に残された数多くの遺構からはかつての栄華が偲ばれます。



池田光仲  
鳥取県立博物館蔵

### 国史跡 鳥取藩主池田家墓所

(鳥取市国府町奥谷)鳥取城跡から車で15分



初代光仲から11代慶栄の藩主墓を中心に、大小78基の墓と、多数の石燈籠が整然と並んでいます。

### 特別史跡 江戸城跡 中之門石垣

(東京都千代田区千代田)



中之門は、江戸城本丸の正門にあたる最も重要な門であり、現存する石垣は、1704年(宝永1)に3代藩主吉泰が修理したものです。